

北部地域整備対策特別委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和5年1月12日（木）～13日（金）

2 視察項目（視察都市）

- ・奥野ダムについて（静岡県伊東市）
- ・三島スカイウォークについて（静岡県三島市）

3 参加委員

委員長：河本 光宏、副議長：福丸 孝之

委員：岡本 壱郎、稲葉 通宣、円藤 こずえ、委員外議員：辰見 直子

4 調査概要

静岡県伊東市を流れる二級河川、伊東大川の流域では、昭和33年の狩野川台風の出水により壊滅的な被害を受けた。一方で、当時、上水道需要が高まっていた伊東市では、伊東大川の自然流量では取水が困難になるとの見込みから、河川管理者である静岡県が多目的ダムの建設を決定し、平成2年に奥野ダムが完成した。

奥野ダムは、堤高63.0m、堤長323.0m、堤体積1,804,000m³のロックフィルダムで、治水は計画基準点の

基本高水流量550m³/sの洪水調節を行い、利水は35,000m³/日の水道用水を伊東市に供給している。なお、平成25年度には発電設備を設置し、管理棟で使用するとともに売電もしている。

静岡県三島市の東部地域に建設されている箱根西麓・三島大吊橋は、「三島スカイウォーク」の愛称で知られる長さ400mの人道吊橋である。恵まれたロケーションを活かすことができ、三島市に人が集まるものをつくることで、地元へ貢献し、地域活性化につなげたいとの思いから、株式会社フジコーが平成24年に着工し、平成27年に営業を開始している。開場から1年間の来場者は160万人で、6年目に500万人を達成している。



奥野ダムにて

5 委員長所感

奥野ダムは、安威川ダムと同規模、同じロックフィルダムであり、既に30年を超える運用実績がある。構造上留意する点として、ダムへの浸透水対策、設備の異常や故障等の監視対策、堤体法面の除草等であることが理解できた。また、流域への安全対策としては、河川監視システムを一般公開するとともに、洪水対応訓練を毎年行い、情報周知体制を整備していることや、市民への憩いの場の提供として、周辺道路や自然公園の利用だけでなく、一日ダム教室やビオトープでのホテル観賞会等のイベント実施も参考になった。

三島スカイウォークは、構想・計画から設計・施工、運営まで、すべて民間企業が行い、吊橋を中心に、現在では多種多様な37施設がある。また来たいと思われる工夫、立ち寄り者にも開放されているラグジュアリートイレなど、安威川ダム周辺整備にも参考になった。